



こいのぼりの「ふきながし」はなぜあるの

ま 魔よけとかわのながをあらわす

5月5日の端午の節句には、男の子のいる家では、武者人形をかざったり、こいのぼりを立ててお祝いをします。こいのぼりが、5月の晴れた空を泳いでいるようすは、気持ちのいいものですね。

こいのぼりは、江戸時代に、町人の間で、コイが滝登りするように勇ましくという意味で始まり、やがて、武家の間にも広がりました。

こいのぼりといっしょに、五色のふきながしを立てます。このふきながしは、端午の節句に、柱などにかざった薬玉(魔よけのためのもの)がもとになっています。薬玉には、五色の長い糸がついていました。この五色の長い糸が、五色のふきながしに変わったのです。

また、ふきながしは、川の流れをデザインしたもので、コイが滝登りするようすを表しているともいわれています。

ぶし つか 武士が使ったふきながし

ふきながしは、昔、武士がいくさをしたとき、自分の陣地に立てた旗の一種です。何枚かの細長い布を丸い輪に取りつけ、それを長いさおの先に取りつけ、風になびかせたものです。

今では、飛行場などで、風向きを知るために、輪に円筒形のふくろをつけたふきながしを見ることができます。

(監修・青木 国夫)

